包括的な学校改善の視点：教育課程・学習指導、働き方改革

児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりを中学校区内で推進する学校モデル

中核校	稚内市立稚内南小学校	指定校	稚内市立稚内港小学校 稚内市立稚内南中学校

■　構築した学校モデルの具体

○　授業のデジタル化

・実物投影機やPCを活用して、低学年から丁寧にノート指導を行うなど、ＩＣＴ機器を活用した学習支援を行う。
・児童同士の直接のやり取りを含め、ＩＣＴ機器を通した他者参照の時間や機会を効率的に設ける。
・全員が同じ手段で学ぶ授業から、学びの手段を児童に委ねる授業への転換を図る。
・授業支援クラウドを活用し、児童個々の習熟状況を効率的に把握する。

【ロイロノートを活用した他者参照】

○　校務のデジタル化

・校外研修中の学びや中学校区内の事務の推進について、Classroomを活用し、情報を共有する。
・保護者や児童へのアンケート、各種行事の日程調整等をデジタル化し、集計に係る時間を短縮する。
・ネットバンキングの導入や中学校区での保護者向け文書の様式、記入例の統一、備品貸借システムの導入など業務の効率化を図る。

【研修クラスルームで気付きを共有】

○　組織的な校務運営

・SSW との日常的な連携や情報共有など、専門職の校務への参画を促す。
・教員業務支援員など、教諭以外の職員による学級・学校運営への主体的な参加を促す。
・図書協力員など、地域協働活動としての地域住民による学習支援を行う。
・各分掌担当者による主体的な事務の推進により、教頭業務の平準化を図る。

【SSW との日常的な連携・情報共有】

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

〔管理職の取組〕

・中学校区の校長間での協議を経て事業推進計画を策定し、各校教職員に目指すべき学校モデルの共通理解を図った。
・学校経営方針の中で本事業に関連する施策を明記し、校内で取組が確実に実行される体制を構築した。進んでいない取組に対し、校長は推進担当者へ他地域の実践に関する情報提供に努めた。
・地域協議会の中で各校の事業の進捗状況を確認し、各校で取り組むべきことを明確にした。

〔専科教員、事務職員の取組〕

・理科専科教員が積極的にＩＣＴを活用した授業実践を進め、児童の学習意欲の向上や理解促進に努めた。また、地区内・市内での積極的な授業公開に努め、指導助言を授業改善に生かした。
・加配事務職員が率先的にＩＣＴを活用した業務の効率化を提案し、推進役の役割を果たした。

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・中学校区の教育研究会の研究発表会の際に、参加している宗谷管内小・中学校教職員に向けて、本事業に係る実践発表を行った。（令和６年 12 月 19 日）
・稚内市校長会や稚内市教頭会の研修会の場で、本事業の進捗状況をその都度報告した。
・中核校の学校Ｗｅｂページに特設ページを設け、本事業に係る発表資料を掲載し、成果や課題を周知した。